歴史民俗資料館特別展

池田氏と牡丹花肖柏

第一回

今秋、歴史民俗資料館では国人・池田氏とその庇護を受けて活躍した連歌師・牡丹花肖柏に着目し、中世後期の社会と文化を取り上げた特別展を開催します。これに先立ち、今回から4回にわたってその内容について紹介します。

摂津国人・池田氏

池田氏は、国人とよばれる在地領主で、13世紀中ごろから池田を拠点に勢力を持つようになり、15世紀前半までには五月山山ろく（城山町）に城（池田城）を築くまでに成長しました。

池田氏の名が歴史上に頻繁に現れるようになるのは、15世紀半ば以降のことです。摂津国垂水西牧桜井郷（豊中市北部～箕面市南部）や摂津国細川荘（細河地域）といった、周辺荘園の所有権や年貢などの利益を獲得し、有力国人としての地位を確立するようになりました。同時に、摂津国の守護で同国を支配していた管領・細川氏の被官（家臣）として、伊丹氏や能勢氏らとともに社会的地位を高めていきました。このような池田氏の急速な勢力拡大は、当時「富貴栄華の家」と評されるほどでした。

牡丹花肖柏画像（大広寺蔵）

応仁の乱と時代の変化

池田氏が勢力を拡大させていた15世紀半ばは、応仁の乱のぼっ発とそれに続く全国各地での争乱といった、戦国時代の幕が開いた時期でもありました。

応仁の乱は、応仁元年（1467）、将軍家や幕府の有力者らの家督争いに、管領・細川勝元と有力守護大名・山名宗全の政争が絡み合い、天下を東軍・西軍に二分する戦乱に発展したものです。両軍とも京都の町中に陣地を構えたことから、多くの寺社や公家の邸宅が焼失することにもなりました。

細川氏の被官である池田氏は、同年5月に東軍方として参戦しています。そのときの様子が「摂津国民池田令上洛。細川被官者也。馬上十二騎、野武士千人計也」と公家の日記に記されており、池田氏が多くの軍勢を率いて上洛していたことが分かります。

応仁の乱は、文明9年（1477）に京都での戦いが収束をみましたが、地方での混乱は依然として続きました。この大乱の結果、将軍や守護大名の権力が弱体化。その一方で、領国の実質的な支配権を握っていた守護代が守護大名に任じられるなど、権力構造の逆転がおこり「下克上」の世の中へと変化していきました。

さらに、乱の発生以降、多くの公家、文人が焦土と化した京都を避け、有力守護や国人を頼り地方に落ち延びていきました。彼らの移住に伴い各地に京都の文化が持ち込まれ、新たな文化がはぐくまれることになりました。実は池田でもこれと同じような状況が生まれていたのです。

連歌師・牡丹花肖柏の来住

池田氏が細川氏の有力被官として広く世間に知られるようになったころ、当時を代表する連歌師・牡丹花肖柏が池田に来住しました。肖柏も京都を脱出した文人の一人です。長享元年（1487）から永正15年（1518）に和泉国・堺へ移るまでの30年余りを、池田氏の庇護のもと大広寺の近くに「夢庵」という草庵をつくり、過ごしたといわれています。

長久三年摂津国細川荘大絵図(歴史民俗資料館蔵)

肖柏を庇護した池田氏も肖柏の影響を受け、当時の連歌選集『新撰菟玖波集』に一族の作品が収載されるまでになっています。また自らも連歌会を主催したといわれ、池田氏は経済、軍事面だけでなく文化面においても京都の人々から注目を集める存在であったと考えられます。

池田氏のもとには、肖柏のほかにも多くの文人たちが訪れ、この時期に培われた文化の土壌が、やがて江戸時代に隆盛を迎える池田文化の基礎となり、今日における池田の地域性の形成に重要な役割を果たしたといえます。

問い合わせは歴史民俗資料館（☎751・3019）

わがまち歴史散歩

市史編纂だより⑲

幻の春日座②

春日座の写真

前々号で、昭和初めごろ、現在のステーションN辺りにあった「春日座」を紹介したところ、早速、市民の方から、いろいろな情報をお寄せいただきました。まずはこの場をお借りして、厚くお礼申しあげます。今回は、お寄せいただいた情報の中から、一枚の写真を紹介しましょう。わずか数年で焼失してしまった幻の春日座の全景が写された、大変貴重な写真です。

蘇ったありし日の春日座

まず、立派で本格的なその姿に驚かされます。正面にはいくつもの花輪が華やかに飾られています。さらに、軒先にはかなりの量のお酒やビール、サイダーなどが積み重ねられています。春日座と改称された際の柿落としの様子でしょうか。そうだとすれば、撮影されたのは、昭和5年（1930）末と考えられます。

向かって右手側が入場口のようです。横手には「招待券　会員券　演者券なき方の入場絶対御断」という紙が張られています。

軒下には大きな6枚ほどの絵が掛けられています。歌舞伎などを題材にしたもののようですが、訪れた人たちは、この絵を見上げて、これから始まる興行に、わくわくとした気分になったことでしょう。

屋根の上には、太鼓櫓が設けられています。これは、明治村に移設された呉服座にも備えられています。実際に、開幕や終演を告げる太鼓が鳴らされていたのかも知れません。この櫓に「池田　春日座」の文字と、この春日座を買収して再興した生魚商の商標「蝶千鳥」のマークが誇らしげに入っているのも目を引きます。

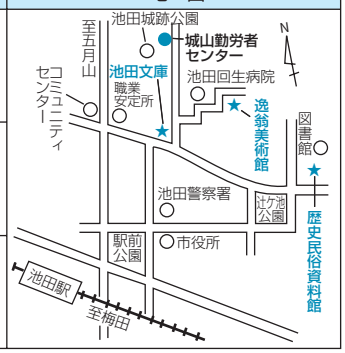
明治座と池田倶楽部

昭和初期の池田には、この春日座や呉服座の劇場のほかに、明治座や池田倶楽部（もしくは池田キネマ）という名前の映画館もありました。このように小都市としては多くの娯楽施設があり、これは近代池田の特徴の一つともいえそうです。

ところで、昭和50年代まで営業していた明治座の歴史は、明治のころまでさかのぼる可能性が高いのですが、残念ながら、創業当初の経緯を示す資料は残されていません。また、池田倶楽部に至っては、具体的なことはまったく分かっていません。どんなことでも結構ですので、情報をお寄せください。

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

みゅうじあむ・がいど

館　名	展示名（期間）／みどころほか	開館時間／休館日／料金	地　図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●企画展「はがきいろいろ―葉書が描く時代―」 8/2(水)～10/8(日) ☆ミュージアムミニトーク（8/20(日)14:00、聴講無料）	●10:00～18:00 ●月・火曜日・祝日 ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●夏季展「青蒼の美―染付のうつわ―」 ～8/13(日) ●特別展「細川護熙・加藤静允 数寄に生きる　―書・画・陶磁―」 9/16(土)～10/9(祝)	●10:00～17:00（入館は16:30まで） ●月曜日 ●一般700円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園 池田文庫 ☎751・3185	展示なし（図書館のみ開館）	●9:30～17:00（入館は16:30まで） ●月曜日、第1水曜日、祝日（月曜日の場合は翌日も） ●200円（図書館は無料）	